

## 平成 28 年度第 4 回長野市総合教育会議 議事録（要旨）

1 日 時 平成 29 年 2 月 1 日（水） 午後 3 時～午後 4 時 30 分

2 会 場 長野市役所 7 階 第二委員会室

### 3 次 第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 新教育委員紹介

(4) 協議事項

① 第二次 長野市教育振興基本計画（大綱）について

② 教育に関する方向性の現状と次年度の取組について

・平成 28 年度全国学力・学習状況調査について

・平成 29 年度の取組について

新学習指導要領

副学籍による交流

・長野市乳幼児期の教育・保育の指針について

③ 平成 29 年度長野市総合教育会議について

(5) 閉会

### 4 出席者

○加藤久雄市長

○長野市教育委員会

近藤守教育長、坂口昌夫教育長職務代理者、茅野理恵委員、倉石和明委員、

塚田まゆり委員

○職員

樋口博副市長

増田企画政策部長、松本教育次長、熊谷教育次長、田中保健福祉部長、上杉

こども未来部長、倉石文化スポーツ振興部長、酒井秘書課長、小池教育委員会

事務局総務課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員

### 5 会議要旨

開会 進行：増田企画政策部長

加藤市長あいさつ

- ・本日は、第四回の総合教育会議の開催に当たり、皆さまにご出席いただき感謝する。
- ・昨日見たあるテレビ番組において、興味深い内容が放映されていたので紹介したい。最近の子どもたちは、怒られて育っていないため、怒られるとすぐに萎縮してしまうことから、ある自動車教習所では、教習生を絶対に怒らず、ほめてほめる指導方法に変更したところ、客数が増加したとのことである。なかなか、難しい時代になっている。
- ・教育委員会とこども未来部、関係部局が連携して、教育現場の難しい課題に対応していく時代である。
- ・本日の総合教育会議は、本年度最後の総合教育会議となる。この総合教育会議は、平成 27 年度に新教育長制度の下で発足した。本年度は、2 回の拡大版総合教育会議を含め 6 回開催し、主に第二次長野市教育振興基本計画（大綱）の策定についての協議を行い、1 月 26 日に答申を頂いた。
- ・皆さまに議論いただいた、事業所の家庭教育への理解の促進が、この計画の中に加えられ、会議での意見交換の内容が反映されている。
- ・拡大版総合教育会議では、長野市の教育に関する現状の課題について「子どもの学力・体力」、「郷土愛を育む子どもの育成」、「企業の教育支援・家庭教育への支援」に焦点を当てて意見交換を行った。
- ・本日の総合教育会議において、三つの協議事項を予定している。一つが、第二次長野市教育振興基本計画（大綱）策定のため実施したパブリックコメントの内容と反映について。次に、教育に関する方向性の現状と来年度へ向けての取り組みについて。三つ目は、平成 29 年度長野市総合教育会議について。それぞれ事務局から説明をさせていただき、委員の皆さまと意見交換を行いたい。

#### 近藤教育長あいさつ

- ・鬼の話になるが、昨日のテレビ番組では、今の子どもたちは鬼を怖がらないということだったが、長野県のニュースでは、泣きながら豆をまき、鬼を怖がる園児の様子が紹介されていた。子どもらしい子ども、親らしい親が育っていく時代ということ、きちんと皆で考えていかなければならない時代なのではないかと思う。
- ・この後、「乳幼児期の教育・保育の指針」について説明があり、こども未来部との連携を深められる良い機会だと思う。
- ・本日の会議において、教育委員会から「全国学力・学習状況調査」の結果、「新学習指導要領」、「副学籍」等についての説明をさせていただく。
- ・本年度最後の総合教育会議となるが、この会議を通じて、今までの教育の進むべき方針を見直したり、市長との共通認識を深めたり、新しい考え方に気付く機会となった。大変、心強く感じている。
- ・平成 29 年度からは、第五次長野市総合計画をはじめとするさまざまな計画が

スタートする。教育委員会としても、一層、関係部局と連携を緊密にして、教育の充実を図ってまいりたい。本日の会議が、そのためにも有意義なものとなるよう、よろしくお願ひしたい。

#### 協議事項

##### (1) 「第二次長野市教育振興基本計画（大綱）」について

- ・小池教育次長副任から資料1に基づき説明

#### 説明内容

- ・第二次長野市教育振興基本計画（案）に対する市民意見等の募集結果  
市民意見募集等の概要  
募集の結果  
主な意見と市の考え方

#### その後意見交換

- ・資料シート6のNo.3の意見要旨でご指摘いただいているように、教員の年齢層により、意識や対応に差がある。校長会等を通じ、市の教育センターでも、年齢の高い先生方への指導をしていくよう理解を求めている。

##### (2) 教育に関する方向性の現状と次年度の取組について

- ・熊谷教育次長から「平成28年度全国学力・学習状況調査」について資料2に基づき説明
- ・熊谷教育次長から「平成29年度の取組」（新学習指導要領、副学籍による交流）について資料3-1、3-2に基づき説明
- ・上杉こども未来部長から「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」について資料4に基づき説明

#### 説明内容

（「平成28年度全国学力・学習状況調査」について）

- ・小学校の結果から
- ・正答率が高い長野市の中学生について
- ・学力向上に向けた市教育委員会の取組
- ・中学校の具体的な取組と課題

#### その後意見交換

(「平成 28 年度全国学力・学習状況調査」について)

- ・この取り組みにより、次の学力学習状況調査において成果が出たら素晴らしいと思う。具体的な取り組みにおいて、部活動の短縮が挙げられていたが、部活動が過度のプレッシャーにならないようお願いしたい。
- ・資料シート 5 に「市教育センター研修の充実」とあるように、教育は、教員のレベルを上げることが非常に重要。教育センターの研修を充実させ、この課題をクリアしないと教育現場に出さないということも必要ではないか。
- ・中学の学力における課題に対し、教科会の充実が重要であると思う。教師が、子どもにとって、分かる授業、楽しい授業を目指し、先輩の教師が後輩の教師を指導し教科会を充実させ、職員間での連携を図ることが、学校全体の活力につながっていくのではないかと思う。
- ・各学校の取り組みとして紹介されているが、今後、同じ生徒に次年度どのような変化が見られたか傾向を見るべきではないか。また、良い結果が出た学校の取り組みを長野モデルとして取り組んだり、エリアで取り組む等、具体的な成果を確認しながら進めることが必要なのではないか。
- ・教員の資質向上のため、研修の充実が挙げられているが、教員が抱えている業務の見直しを行い、加重労務を見直し、本来、専念すべき所に専念するようになるべき。研修を増やすと、更に負担ばかりが増える。

#### 説明内容

(「平成 29 年度の取組」 「新学習指導要領」について)

- ・学習指導要領改訂までの動き
  - 多様な個性が活かされる教育の実現
  - これまでの提言の確実な実行 (提言のフォローアップ)
- ・新学習指導要領について
- ・学習指導要領改訂への市教育委員会の対応

(「平成 29 年度の取組」 「副学籍による交流」について)

- ・就学相談の主な流れと特別支援学校判断を受けた児童生徒に関する現状と課題
- ・特別支援学校との交流に関する現状と課題
- ・副学籍の実施とそれによる交流の目的
- ・「副学籍による交流」実施の場合のモデル (小学校)

#### その後の意見交換

(「平成 29 年度の取組」 「新学習指導要領」について)

- ・新聞に、読解力が大幅に落ちているという記事が載っているように、国語力が

重要で、外国語も国語力が必要だと思う。

- ・問題の中に解答があるにもかかわらず、解答できない、問題そのものが読解できていない子が多い。
- ・自分で問題意識を持ち、資料を読み込み、考察して表現していくサイクルがアクティブラーニングに今後求められる。アクティブラーニングが読解力を高めることにつながり、新学習指導要領の求めるものと重なるのではないか。
- ・読解力というと、本を読み取る力と思われるが、こうして話し合うことそのものが読解力につながる。

(「平成 29 年度の取組」 「副学籍による交流」について)

- ・長野県内では、来年度 20 市町村（長野市、千曲市、坂城町を含む）が実施予定。
- ・長野市では、ろう学校、盲学校、養護学校と交流しているところが、各校少しずつある。

説明内容

(「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」について)

- ・策定の趣旨
- ・指針の位置付け、期間
- ・目標とする子どもの姿
- ・しなのキッズに育まれる 4 つの力（長野市らしさ）
- ・基本方針の体系
- ・「取組の方向性」別の「目指す内容」

その後の意見交換

(「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」について)

- ・本指針は、今回初めて作られたものであり、他市でもこのようなものはなかなか無いとのことである。こども未来部ができた成果と言えるのではないか。
- ・他市の状況を調べたところ、私立と公立、幼稚園と保育園と分けて、全てを網羅したこのような指針は無い。活用できると考えている。
- ・「しなのきプラン 29」を教育委員会で作成したとき、義務教育開始の 7 歳から始まっていた。しかし、学齢前の子どもについては、どうなっているのかという素朴な疑問が起こり、こども未来部ができた中で、こども未来部と教育委員会が、幼児教育的な部分についても光を当てようという動きになった。

(3) 平成29年度長野市総合教育会議について

- ・酒井秘書課長から資料 5 に基づき説明

加藤市長

- ・拡大版も含め、本年度6回の総合教育会議を開催できたことに、お礼を申し上げたい。先ほどお話ししたように、教育は、0歳から18歳まで、教育委員会、子ども未来部、保健福祉部、文化スポーツ振興部が連携をしながら、子どもの学力・体力、総合力を含め、進めてまいりたい。